
心空ペイント

西団子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

心空ペイント

【Nコード】

N7388C

【作者名】

酉団子

【あらすじ】

明るくて自慢の弟と姿形を重ね合わせて自分を嘆く俺はまだホントの自分を見つけてない。自分はホントはどんな人間なのか、まだ見つからない。心の空はまだ晴れない。

ブローグ

昔からよく言われていた。どうしてそんなに自信がないの。どうしてそんなに下ばかり向いているの。どうしてそんなに暗いの。

そうなってしまった理由を俺自身はもう知っている。そうなってしまった理由、それはいつも同じ家で暮らして、いつも会話している。

気づいた時から、家が少し嫌になった。いつも比べられている事実がつかった。卑屈な自分が嫌だった。

俺はいつも出来のいい弟を自慢に思いながら、憧れて、そして少し憎いと思っている。

「おはよう。兄貴」

そういつて朝から学校中の女の子達が見れば、下手をすれば卒倒するかもしれない笑顔を振り撒くのは弟の時斗。

俺がこうなった一因。

「今日はちゃんと起きたな。雪斗」

「あら珍しい。今日は雨かしら」

そういつて微笑む父と、こちらに目を向けず台所で手際良く朝食を作りながら、話す母。

この二人もきつと一因。

息子の俺から見ても美男美女夫婦と、その息子の誰が見ても美形とわかる双子の弟。

朝から随分華やかな空間。綺麗な空間。

「たまにはちゃんと起きるよ。俺でも」

寝ていたまんまの上下ジャージの姿でリビングの入り口に立っている俺。

鼻辺りまで伸びた前髪。痩せ型の細っこい体にどことなく根暗な空気。

綺麗な空間に存在する醜い存在。

白鳥の群れの中になぜか生まれてしまった醜いアヒルの子。
ちゃんと自覚している。場違いって事。優しい両親がたまに、

どうしてあの子はあんなに暗いのか。

なんで時斗みたいにしてくれないのか。

と嘆いている事も知っている。

変わるべきかもしれない。いつもそう思う。でも結局変われない。
い。

変わって何も変わらない可能性がたまらなく怖いから。

だから、結局このまま。明るく振舞うのを拒否した。

表面上は開き直って、いつも過ごしている。

心の中はずっと不安で不満で不自然なままで。

自分で思い込んだもつとも自然なままで、

「おはよう」

そういつて髪で隠れそうな口元を少し歪める。

晴れた場所を知ってなお、俺は曇り空の下にいる。

まだ、俺は素直になるのが怖くて。ほんとの自分がわからなくて。

少し、醜い自分に甘えている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7388c/>

心空ペイント

2010年12月22日14時32分発行